

# 生化学検査 検査項目解説①

## 総蛋白・アルブミン・A/G比（アルブミン・グロブリン比）

総蛋白は血液中の総たんぱくの量を表します。アルブミンは肝臓で合成されます。血清蛋白のうち最も多く含まれるのがアルブミンです。これらは栄養状態の指標になります。

## 総ビリルビン

血清中ビリルビンの増加により、皮膚、粘膜などが黄染した黄疸の程度を表す数値です。肝臓や胆道系の異常で上昇します。

## CPK（クレアチンキナーゼ）

筋肉の障害（特に急性心筋梗塞や進行性筋ジストロフィー）では著しく高くなります。激しい運動でも上昇します。

## AST（GOT）・ALT（GPT）

肝臓の細胞が壊れると上昇する酵素です。  
ASTは心臓、筋肉、肝臓に多く存在する酵素です。  
ALTは肝臓に多く存在する酵素です。  
数値が高い場合は急性肝炎、慢性肝炎、脂肪肝、肝臓がん、アルコール性肝炎などが疑われます。

## LDH

体内でブドウ糖がエネルギーに変化するときに働く酵素です。  
主に肝臓、心臓、腎臓、骨格筋、血球に異常が生じると上昇します。

## ALP

肝臓や胆道系の異常で上昇する酵素です。  
肝臓の他にも、骨、小腸、胎盤などに存在します。

## $\gamma$ -GTP

肝臓や胆道に異常があると上昇する酵素です。  
数値が高い場合はアルコール性肝障害、慢性肝炎、胆汁うっ滞、薬剤性肝障害が疑われます。

## CHE（コリンエステラーゼ）

肝臓病の重症度の指標で、進行すると低下します。  
栄養が良好な状態では上昇するので、脂肪肝では逆に上昇します。

## 血清アミラーゼ（AMY）

主に膵疾患で高値になりますが、胃、十二指腸潰瘍の穿孔、腸閉塞、悪性腫瘍でも上昇する場合があります。